

令和 7 年度 土浦日本大学高等学校通信制課程自己評価結果

本校の目指す 学校像	日本大学の建学の精神を礎とし、生徒一人一人の夢の実現に向けた努力へのサポートを目指しています。 (1) 校是として掲げる「調和・至誠・自立」を基に、広く世界の文化を受容し、自らの道を自ら切り拓くことで できる、心身ともに健全な文化人を育成します。 (2) 次の時代の先駆者となるべく目標と覚悟を持つ生徒を育成します。 (3) 自ら学び、自ら考え、自ら道を開いていくことができるように努めます。
本校の特徴 および課題	本校は、日本最大級の規模を誇る総合大学「日本大学」の付属高校であるという安定した基礎の上に、生徒の自主性を尊重しつつ、一人一人の課題を把握することで、適切にサポートしていきます。土浦日本大学学園全体で個々の生徒に適した学習の場を提供し、進路や将来を見据えた悩みなどに担任を中心として、教育相談やカウンセリング行い、一人一人の多様性に応じた指導・支援に取り組みます。日本大学付属校のメリットを活かした進学指導に努め、生徒一人一人の目標進路達成を目指して進路指導に取り組みます。
令和 7 年度 取組結果	通信制課程開校 5 年目で、第 1 学年新入生17名・再履修 2 名、第 2 学年44名、第 3 学年36名の99名で令和 7 年度をスタートした。5 月から転校生、転籍生があり、年度末には134名の在籍となった。 令和 7 年度卒業生40名の進路については、日本大学へ内部推薦試験にて文理学部、法学部、国際関係学部 2 名、生産工学部 2 名に 6 名が進学している。私立大学では、難関の早稲田、慶応、上智、立教、中央の各大学に合格し、その他、國學院、文教、聖心女子、昭和音楽等の大学を含め、私立大学40大学、専門学校 8 校に合格者を輩出した。また、2 名が就職している。また、既卒生が東京外語大学、茨城大学、青山学院大学等に合格した。 生徒一人一人の目標進路に適したコース（進学、通学、一般、スポーツ・芸術）選択、個別指導により、個々の夢の実現達成に向けた体制を継続する。

目標設定・活動点検の適切さ ・活動の達成状況	A：取組目標が達成された B：目標はおおむね達成された C：課題を多く残している D：成果が出ていない
---------------------------	--

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点 検の適切さ・活動 の達成状況
教育活動 （教務）	①目標の設定 について	生徒一人一人の進路目標に即した学習指導、I C Tを活用した学習を実践する。日本大学推薦入試や他大学受験に向けた特別授業や模試を実施する。	A
	②活動の実際 について	生徒個々の学習への取組状況を把握し、保護者とも連携して、希望進路実現に向けた個に応じた指導を展開した。 シラバスを作成し、生徒の学習ペースが保たれるように努めた。	A
	③活動の点検 について	生徒の中には学習ペースが保たれずに、レポートの作成・提出、スクーリングへの参加が遅れる状況が散見した。遅れた背景を究明し、個に即した適切な指導、支援を保護者と連携しながら点検することができた。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点 検の適切さ・活動 の達成状況
教科指導 （教務）	①目標の設定 について	学習指導要領に即したカリキュラムを構築し、シラバスに示した教科指導を推進する。	A
	②活動の実際 について	学習指導要領を基に、基礎学力到達度テスト及び他大学入試に対応できるカリキュラムを構築し、生徒一人一人の希望進路を目指して個別指導を軸にして進路実現に取り組んだ。	A
	③活動の点検 について	学習指導要領に対応するカリキュラムを整理し、常に進捗状況を把握しながら年度の途中であっても適切な運用できているか点検して、ケースによっては改善を図った。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点 検の適切さ・活動 の達成状況
学校生活への 配慮 （生徒指導）	①目標の設定 について	生徒一人一人の生活習慣や心身の状況、課題等を把握し、個に即した適切な生徒指導を 実践する。また、登下校時には、教職員からの声掛けにより、信頼関係の構築を図り、生徒の状況を把握する。	A
	②活動の実際 について	生徒一人一人が様々な悩みを抱えているため、背景を踏まえた個別指導を軸として取り組んだ。また、心因的な課題や生活習慣等については、教職員全員の共通理解を図りながら全教職員で対応した。生徒個々の情報を担任に集約し、保護者への連絡、家庭訪問や三者面談において活用することで、生徒、保護者と良好な関係を継続して学校生活の充実に努めた。	A
	③活動の点検 について	教職員が生徒一人一人の生活習慣や心身の状況を共有したうえで、登下校時の声掛け、家庭訪問や三者面談を通して、生徒、保護者とスムーズに連携できた。また、担任、学年主任が常に点検し、指導に活かすことができた。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
進路指導	①目標の設定について	生徒一人一人の希望進路に即した進路指導を徹底する。日本大学付属高等学校等基礎学力到達度テストや他大学進学、専門学校進学のための特別編成授業や個別の面接指導・論文指導を推進する。また、就職希望者にも寄り添った指導を実践する。	A
	②活動の実際について	生徒一人一人の希望進路に即した進路指導が教職員全員の共通理解のもと、担任や学年主任が中心となって展開された。面談を繰り返し、目標進路を明確に定め、個別指導を主体に取り組んだ。 また、春秋には実力養成特別編成授業により生徒の実力、意識の改善に努めた。	A
	③活動の点検について	生徒一人一人の希望進路に即した指導により、幅広い進路を達成できた。本年度の卒業生は40名で、日本大学へは文理学部、生産工学部をはじめ4学部6名が合格した。また、早稲田、慶応、上智、立教、中央大学等の難関大学や、國學院、文教、聖心女子、昭和音楽大学など、私立4年制18大学、学部23校、専門学校7校に合格した。 また、既卒生が東京外語大学、茨城大学、青山学院大学等に合格した。 指導と合格実績を一体に振り返り、継続できるように点検をしている。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ活動の達成状況
教育相談	①目標の設定について	充実した学校生活を目指し、生徒や保護者からの主訴や教職員の観察情報を担任に集約し、必要であればスクールカウンセラー及び養護教諭との連携を図る。	A
	②活動の実際について	生徒、保護者からの相談を常に受けられる体制を整え、カウンセラー、養護教諭、全日制の教育相談部と連携して解決を図った。また、学年主任、担任を中心に家庭訪問、三者面談を実施し、課題の解決を図った。	B
	③活動の点検について	教育相談内容は必用に応じて学年主任、担任、養護教諭、教職員と情報共通を図り、適切に対応できた。また、家庭訪問、三者面談では、生徒の課題解決及び信頼関係構築につながった。相談内容を全教職員で点検して次年度に積み重ねていく。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ活動の達成状況
いじめ防止対策	①目標の設定について	本校で掲げた「いじめ防止基本方針」に示された『未然防止』『早期発見』『適切な対応』『再発防止』の各取組に対するの共通理解を深め、いじめ根絶を目指す。	A
	②活動の実際について	生徒の交流機会が少ないため、『未然防止』に努めることに重点を置いて指導した。また、アンケートによる現状把握にも取り組んだ。	A
	③活動の点検について	今後は『未然防止』だけではなく、『早期発見』、『適切な対応』、『再発防止』の3項目の取組を軸として、教職員の見守り、カウンセラー、養護教諭との連携体制の充実を点検し、推進する。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
広報 (情報入試)	①目標の設定について	右叻桜キャンパスを会場として高校生、中学生を対象とした進路相談会を11回実施する。県内、千葉県隣接地域、栃木県隣接地域の中学校・高校を計画的に訪問して広報活動を充実する。 通信制等連絡協議会主催の進路相談会、私学フェア等への参加、ホームページのリニューアル、学校案内のリニューアル等に取り組む。	A
	②活動の実際について	年間を通して広報活動を展開した。 右叻桜キャンパスにおいて進路相談会（11回実施）や、個別相談会により多くの生徒が参加した。特に、夏休みで会の相談会では中学生の入学に直接繋がったケースが見受けられた。また、中学校、高等学校への訪問を行った。通信制等連絡協議会の進路相談会や私学フェア等へ参加した。ホームページ、スクールガイドを刷新して広報に努めた。	A
	③活動の点検について	右叻桜キャンパスを活用した進路相談会は相応の成果があり、できるだけ来校いただける方策を再考して、生徒確保に臨む。また、中学校、高等学校における生徒の転学時期を踏まえ、より効果的な訪問時期を計画する必要がある。 転学生徒の状況を点検し、本校へのニーズ（大学進学、高校卒業等）をしっかりと把握しながら効果的な募集活動を推進する。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
管理運営 (事務)	①目標の設定について	①校務運営の円滑化（スクーリング・行事等・入試広報活動・事務システムでの 教 学部門・全日制課程との連携。教育システムの充実，学校案内・HPのリニューアル） ②教育環境の充実・維持（右叡桜キャンパスでの教育活動・募集活動充実のための施設の 整備，つくば方面バス運行の検証）	B
	②活動の実際について	新校舎及び管理棟の教室活用について，進学コース・通学コースの日常的な学習のみならず，生徒の履修状況に応じて少数授業展開が生じる集中スクーリング，個別面談・個別指導，自習室設置に柔軟に対応できている。令和7年度は，教員用パソコン更新時に，校務のみならず，授業で教室用WiFi・プロジェクターとともに活用できるよう，タブレット型ノートパソコンを購入し，ICT教育環境の充実を図った。 個々の生徒の単位取得数・必要な学習支援に応じて納付金を収受することが必要なため，申込書類等と照合の上、適切に事務処理を行った。また，合格書発行まで教務・情報処理と連携し遅滞なく事務処理を行った。令和7年度は，本校ではじめての修学旅行を，申込・集金等の事務手続きを含めて円滑に実施することができた。 全日制課程庶務部の協力のもと、第5回入学式（集会室）、第5回卒業式（第2アリーナ）に多くの在校生・保護者・教職員が参加し、厳粛に盛大に挙行された。土浦日本大学高等学校全日制課程及び岩瀬日本大学高等学校の施設を利用した集中スクーリングも順調に行われた。 本校とつくば駅の送迎については，午後便を増便し，利便性を向上させた。	B
	③活動の点検について	令和7年度は，I C T教育設備の整備により教育環境の充実を行ったが，令和8年度以降は，個別学習がし易い環境を整え，生徒の自学自習の充実を図るとともに，保健室の環境を整備し，保健相談の充実を図るなど，通信制課程の特色にあった個人に対応した教育環境の整備を更にすすめていきたい。	B